

# Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

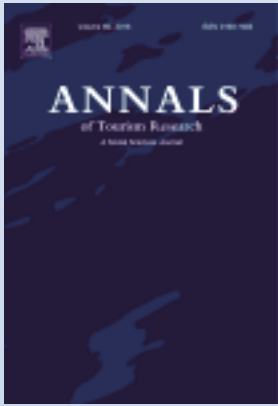
WTU Autumn/Winter 2016



津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える（和歌山県有田郡広川町）  
（関連レポート：9ページ）

## Contents –目次–

1. Research & Journals –書評–
2. Reports –和歌山大学観光学部生の国際/地域活動報告を紹介–
3. Topics –過去のイベントとニュース–
4. Future Events –今後のイベント紹介–



■ 島袋 あずささん (大学院観光学研究科博士前期課程 2 回生 /

長崎外国語大学外国語学部出身)

書評：

COMPETING HOSPITALITIES IN JAPANESE RURAL TOURISM

John Knight, *Annals of Tourism Research*, Vol.23, No.1,165-180,1996

筆者の John Knight は、日本の山村地域に関心が強く、本研究は日本のルーラルツーリズムの発展についてまとめたもので、日本の山村地域における観光振興の先駆地である和歌山県本宮町（現田辺市本宮町）を対象に、複数回のフィールドワークを実施し、ゲストハウスのオーナー、スタッフ、観光客、地域の人々などにインタビューを行い、その結果をまとめたものである。

1980 年代、農山村の人口減や高齢化、地域産業衰退などが問題視されると、政府は「総合保養地域整備法（いわゆるリゾート法）」を制定した。リゾート法では、①国民にゆとりある余暇を提供し、②過疎化・地方自治の自由化にゆれる地域の振興を図り、③民間活力により内需を拡大する、目標が掲げられた。対象地の定義としては、良好な自然環境を有する土地を含む相当規模の地域である等の要件を備えた地域とし、リゾート開発が行われた。和歌山県でのリゾート法の適用はグリーンピア南紀（那智勝浦・太地）のみで、本宮町における観光業成長の転換点は、1970 年から起こった温泉ブーム及び熊野詣のための巡礼ツアーなどによる観光客の増加であった。リゾート法施行当初の市町村は、雇用機会の増大・関連産業の振興など地域振興の切り札として、観光振興に期待していたが、実際には、雇用機会の増大は、経営の中核となる人材を含め多くが域外からの採用となり、雇用機会にさほど大きな効果はなく、地元産物の利用も少ないままであった。また、地域の人々はお金を地域に落としてくれる観光客を優先に考え、地域の人々と観光客の関係はサービスをする側と受ける側となった。すなわち、サービスとは無形の経済財のことであり、具体的利用者に対して顧客満足のため他律的に提供する「もてなし」を意味しているので（山上・堀野、2001）、地域の人々と観光客の関係はホストとゲストの関係（サービスをする側と受ける側）が顕著となり、地域の人々は観光客から利益を得るといった状況となっていた。反面、道路や上下水道の整備といった市町村の財政負担の増大、開発の賛否をめぐる住民間の対立と行政に対する不信増大、地価高騰と外部企業依存による住民の内発的な町づくりの意欲減退といった、いわば地域共同体の破壊が各地でみられるようになった。また、観光客の中には、地域の食材である松茸などの資源の乱獲などの法令違反をする人々が出はじめ、観光客による環境破壊の問題などが出てきた。筆者による現地でのヒアリングによると、地域住民は地域を観光客に占領された意識を抱いたという。

地場産業の発展と地域住民自ら町づくりを進める内発的な町づくりをしようと本宮町は、「ふるさと会」を設立し、本宮町の食材・地域情報などを都市住民の会員に発信する活動や地産地消の動きで地場産業を盛り上げていった。また、1994 年「農村漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律」が制定され活発的となったグリーンツーリズムや食の安全性問題などにより、観光客の意識が変化し関心が地域へ向かうようになると、ただ癒しを求め田舎へ赴くのではなく、農家民泊での農家ライフの体験など地域の人々との交流に価値を見出す観光客が増加した。そのような経緯から、地域の人々と観光客の関係は、サービスにおいてのホストとゲストの関係から、ホスピタリティ的な平等な関係となっている。ホスピタリティの概念は、服部（1996）の営利・非営利を問わずさまざまな分野で、対等な個人を前提に、良好な相互関係をともに創造し持続させるものとして説明される意味が筆者との考えと近いものである。筆者は、従来の観光産業は経済活性化などの狭い意味であったが、現在は広い意味での観光を捉え、経済効果だけでなく地場産業の発展、地域住民による内発的な町づくりやゲストハウスや農家民宿で交流などにつながるグリーンツーリズムであり山村地域活性化には重要な役割があると指摘している。

本宮町は、むやみな観光振興が地場産業の低迷や住民による内発的な町づくりの意欲減につながり、観光客増加による環境破壊などの問題から、本宮町自身が、本宮町の良さを活かした地域活性化を主導して進めるという傾向が表れ始めた。筆者は述べている。外国人研究者がこのような日本の農山村の観光振興について研究した論文が1996年に発表されていることは興味深い。近年、地方創生などの流れにより地域活性化に向けた取り組みが盛んであり、地域の人々と観光客の交流も重要視されている。しかし、地域活性化の成功例を真似し、地域の良さが活かしきれない地域や、地域側が観光客を過剰にもてなす意識が高い場合も存在しつつあり、地域側が結果的に疲弊する場合もある。評者は地域の中から地域が元気になるためには観光客との関係を良好に保ち、地域に相応しい活性化方法を実現していくことが一つの目標だと考える。

#### 《参考文献》

服部勝人（1996）『ホスピタリティ・マネジメント』丸善ライブラリー

山上徹・堀野正人（2001）『ホスピタリティ・観光事典』白桃書房

## Reports —和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告を紹介—

■ 西込 千穂さん（観光学部2回生 / 奈良県立桜井高等学校出身）

近藤 真紀さん（大学院観光学研究科博士前期課程1回生 /

観光学部2015年度卒業生、大阪府立鳳高等学校出身）

参加イベント：ASEAN Plus Three Tourism Youth Summit@フィリピン



2016年6月19日から25日に、フィリピンで開催されたASEAN Plus Three Tourism Youth Summitに、日本代表として参加しました。ASEANと日本の計11ヶ国の代表者が各3名ずつ参加しました。

ここでは、ASEANの観光開発計画やフィリピンの観光政策について学び、参加者はチームビルディングを通して一致団結しました。

ドゥマゲッティ市では、街を舞台にレーススタイルの観光を行いました。このようなタイプの観光を初めて体験して、予想以上に盛り上がったので若者の団体に最適だと感じました。その後、現地の学生も

交えて、街の分析を行いました。

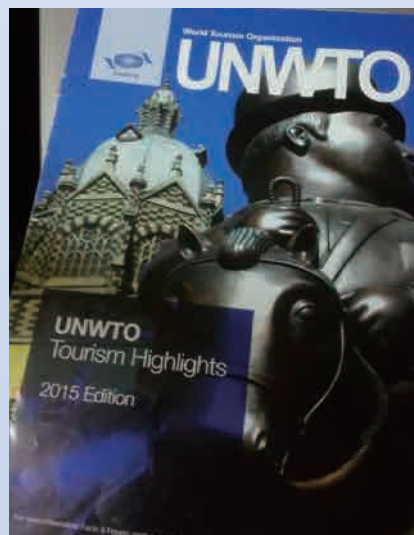
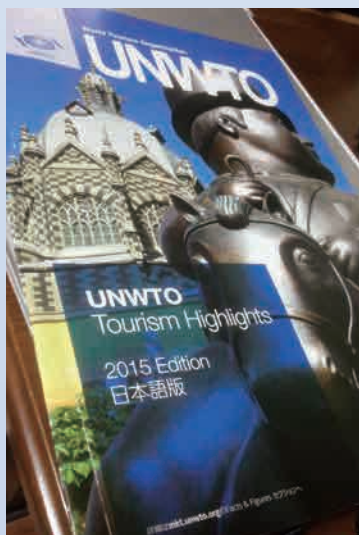
最終日は各々、民族衣装を着てダンスやプレゼンテーションを披露しました。私たち日本人は浴衣を着てプレゼンを行い、ソーラン節を踊りました。

この会議を通して、世界で行われているユニークな観光政策に興味を持ちました。これからは国外の観光にも目を向けていきたいと思います。しかし英語で専門的に観光学を学ぶためには、さらに英語力の向上が必要だと痛感しています。そして次世代を担う若者の私たちは、今だけでなく、数十年、数百年後、その先も見据えた観光開発に取り組む必要があるという結論に至りました。そのためには、国境を越えた協力が必要不可欠だと思います。この会議でできた人脈、関係は途絶えさせず、さらに強い絆を築き将来に活かしたいと思います。



■ 村田 直寛さん（学部3回生／奈良県立平城高等学校出身）

## 参加プログラム：UNWTO Tourism Highlights 翻訳活動



和歌山大学は、国際連合専門機関の1つであるUNWTO（世界観光機関）のアフィリエイト・メンバー（賛助加盟員）である。そのため、UNWTOが発行している Tourism Highlights を和歌山大学の学生が日本語に翻訳するという活動を行った。

実際の活動内容としては、最初に UNWTO の地域事務所である UNWTO アジア・太平洋センター（奈良県）の方と連絡を取り、翻訳の方針や方法を前年度のものと同じくするためにミーティングを行った。その後、原版データの完成を待ち、

ページ毎に担当を振り分け、翻訳を行っていった。

普段使わない文法表現が随所で見られ、その点を翻訳することは非常に苦労した。その部分は数人で集まり、どのように翻訳すれば分かりやすいかを話し合った。それを通して他の学生の英語能力を改めて知ることができ、それは今後、英語を学んでいく中で刺激的なものになった。活動全体を通して、現在の世界における観光事情をきちんとした形で知ることができた。また、翻訳チームメンバーはこのような活動に携われたことで非常に有意義な体験ができた。それぞれのメンバーが学べたことは、今後の彼らの活動に良い影響を与えたことと思う。



## ■ 田村 滯さん (学部3回生/帝塚山高等学校出身)

参加プログラム：World Tourism Day 世界観光の日 記念講演会

Tourism “Education” for All (講師：Professor Richard Sharpley)



今回のセミナーのテーマは Education for sustainable ということで、私が現在所属しているゼミナールと深く関わっている内容でした。海外では sustainable という言葉は日本よりも早く取り入れられていますが、海外でも人それぞれ価値観が異なっており、sustainable についてどうすれば理解してもらえるのが難しいとシャープリー教授はおっしゃっていました。ゼミナールで主な調査地となっている農村でも持続可能性について議論されていますが、大規模化といった動きもあり浸透しづらいのが現状です。今後、

その教育をどう確立していくのが地域再生に影響する要因の一つだと思いました。また、海外の事例についても聞かせて頂きましたが、観光客抑制策を行うバルセロナと、観光客誘致策を打ち出している日本との違いを知ることができました。新しいホテルの建設や登録を停止する取組についてはヨーロッパらしい取組だと感じました。今回の講義を聞いて、日本で取り入れたら良い考え方や取組が多くあったように思います。

そして、以前よりももっと英語で理解したいという思いが強くなりました。これからもこの思いを忘れず、英語の学習を続けていきたいと思っています。

## ■ 片山 豊人さん (学部1回生/社会人入学)

参加プログラム：Global Intensive Project (GIP)

Oxford, United Kingdom ~ Tourism + Culture



私は2016年8月7日から27日に英国オックスフォードの Hertford College による Advanced English Language and British Culture Programme に参加した。

英語圏最古の大学都市に滞在し、その中でも1282年設立という歴史ゆかしい Hertford College で学べる可能性があることが、このプログラム最大の特徴であり魅力である。プログラムで各所に出かけ見識を深めるのはもとより、滞在中は自由時間がかなりあるため、オックスフォードの街を充分満喫することができる。

今回はオープンプログラムへの参加となり、授業は英国の主に言語、文化、歴史に関する基本的なことがらを学ぶものであった。参加者の目的にも因るが、やはり本学にて一定数の参加者を募って、先方の協力のもと可能な限り“カスタマイズ”されたプログラムが実施されるのが、より望ましいと私は感じた。

応募者の少ない大学を集めての合同プログラム実施は今回が初の試み(カレッジ関係者談)とのことで、日本3大学、中国2大学から成る合同クラスであった。授業中や自由時間に互いに交流しながら学び過ごせるのが利点である一方、合同であるがゆえに授業内容が一般的なものとならざるを得ないことはマイナス点である。

プログラム参加は私にとって貴重な体験となり得、今後の学習意欲を一層駆り立てるものとなった。Hertford College は和歌山大学をよく認知していて、これからも多くの和大学生のプログラム参加を望んでいるとのことで、私も同様に切に願うところである。

■ 三浦 佳穂さん（学部1回生／和歌山県立向陽高等学校出身）

■ 利光 知佳さん（学部1回生／大阪府立岸和田高等学校出身）

参加プログラム：Global Intensive Project (GIP)

Queensland, Australia ～ Tourism + Environment



今回オーストラリアで、様々な場所を訪れました。そのうちの一つのビナバラでのエコツーリズム体験では、スリル満点のアクティビティとガイド付きウォークを体験し、緑に癒されながら、オーストラリアの大自然、歴史、文化を学びました。メンバーと先生と一緒に心のこもった料理を囲み、その日の出来事や将来について語り合い、暖炉の側でジェンガをしました。最近、人々がますます社会と疎遠になっていく中、大自然は人々を一つの場所に集め、お互いの顔を見ながら話して笑って共に温かな時間を過ごす大切さを人々に教えてくれます。これは、エコツーリズムを実施する意義の一つであると学びました。

このプログラム全体を通して、観光地を運営・訪れる際、自然や動物を保護していく大切さと、難しさを感じ、考えることができました。そしてほとんどホームステイで過ごし、日本とは違う文化を楽しむことが出来ました。また、英語を流暢に話すことはできないので不安もありましたが、行ってみたい！動物・自然と触れ合いたい！という気持ちが大きく、思い切って参加しました。実際行って見て、別の観点も生まれ、とてもいい経験ができ、行って良かったなと心から思っています。

■ 松原 早希さん（学部3回生／大阪府立三島高等学校出身）

参加プログラム：Global Intensive Project (GIP)

Alberta, Canada ～ Tourism + Culture



2016年9月の約1ヶ月間、今年から始まったGIPアルバータ実習に3回生3名と2回生7名の計10名で参加しました。プログラムの内容は、語学研修とカナダにおける観光の視察を軸に異文化交流を行う、といったものです。

午前には英語を学ぶ為、アルバータ州の州都エドモントンに位置するアルバータ大学で語学研修を受けました。加えてエドモントンでのホームステイ生活により、ありのままの英語に触れ自分たちの語学力を生かす場面が与えられた結果、語学力の向上へと繋がりました。授業を終えた午後はフリータイム、もとい様々なアクティビティが用意され

ており、乗馬、ゴルフ、パーティーなど、どれも貴重で充実した体験ばかりです。またアクティビティの一環として、エドモントン観光局における観光資源のアプローチを実際に聞き、カナディアンロッキー、ウェストエドモントンモール等カナダの持つ観光地を訪れ、日本とは対照的な観光の在り方を学びました。

私たちはこのアルバータ実習において、上記の活動を基に行われた異文化交流により刺激を受け、新たな視点や価値観の創生と共にこれからの大学生活における新たな指標を各人が見出すことが出来ました。この夏季休暇で最も充実したプログラムだったと言えるでしょう。留学が初めてだという人、自分の語学力を確かめたい人、視野を広めたいという人、あらゆる人に勧めたいプログラムです。

■ 赤澤 由真さん（学部3回生／徳島県立城ノ内高等学校出身）

参加プログラム：市駅“グリーングリーン”プロジェクト2016

～市駅前通りを緑と憩いの広場にする社会実験～ | 永瀬研究室  
(和歌山県和歌山市 南海和歌山市駅周辺)



私たち永瀬研究室では、和歌山市駅周辺のこれからのまちづくりの将来像を市民と共有しながら、具体的な取り組みを進めるべく、平成26年に「市駅まちづくり実行会議」を発足。市駅前のまちづくりについて、ワークショップを実施しながら、市民による検討を進めています。平成27年9月には、市駅前通りの一部を歩行者天国化し、駅前の賑わい・市民の憩いの場を実験的に創出する社会実験「市駅“グリーングリーン”プロジェクト～市駅前を緑と憩いの広場にする社会実験～」を実施。このプロジェクトは、「GREEN（＝緑、環境

にやさしい）」と「GLEAN（＝拾い集める）」をキーワードに、和歌山市駅周辺の魅力を集め、緑あふれる、人と環境にやさしいまちづくりをコンセプトとしています。

そして昨年度の成果と課題を踏まえ、今年度は9月15日～10月2日に、「市駅“グリーングリーン”プロジェクト2016」を実施。今年度は、昨年度も実施した「市駅前通り歩行者天国（くすのき広場）」、「市堀川クルーズ」に加え、新たに「市駅まちぐるみミュージアム」を開催しました。これは、市駅前エリアの歴史や生活文化、生業、魅力的



な空間に触れられる体験型プログラムです。初の試みでしたが、メガネ屋でのサングラスづくり体験や、八百屋でのピクルス作り体験など、バラエティ豊かな45のプログラムを実施することができました。

社会実験のメイン期間にあたる9月30日～10月2日には、「市駅前通り歩行者天国（くすのき広場）」と「市堀川クルーズ」を実施。くすのき広場では、普段は車道である場所に芝生を敷き詰め広場にし、こだわりのお店が集まったマーケットや、芝生の上での音楽ライブなどを実施しました。また、市堀川クルーズでは、小型船で川面からの新鮮なまちの景色を眺めることができ、たくさんの人々に、市駅前の新しい可能性を体感していただきました。

このプロジェクトが、市民の方々がまちのことを考えるきっかけになっていればと思います。これからも市民と一体となり、市駅周辺のさらなる魅力向上を目指し、まちづくりへ取り組んでいきたいです。

## ■ 八役 奈央さん（学部3回生／開智高等学校出身）

参加プログラム：お月見カフェ@ぶらくり丁（和歌山県和歌山市）



お月見カフェとは科学文化ゼミ（尾久土・中串ゼミ）が中秋の名月の日に合わせて企画する同時多発カフェイベントです。3回目を迎える今年は木川ゼミも加わり3ゼミ合同で「中秋の名月を楽しむ」をモットーに複数のカフェイベント、また複数の場所で観望会を開催しました。実施方法としてはぶらくり丁内やその付近の飲食店などにご協力いただき、場所を貸していただくという形で行いました。

ゼミのメンバーが直接店舗交渉を行い、3年生を中心として原則1人1つ（木川ゼミは2人で1つ）のイベントをプロデュース・

運営しました。また今年は永瀬ゼミ企画の「市駅“グリーングリーン”プロジェクト2016」の中の「市駅まちぐるみミュージアム」と期間が重なっていたので、そちらにも協力を仰ぐ形で行いました。

実際に店舗交渉や広報などを行う中で、自分たちでイベントをプロデュースし運営するというのは想像よりも難しく、ときには思い通りにいかない事もありました。今振り返って反省すべき点もあります。しかし、自分の考えていることを相手にきちんと伝えること、また情報共有や連携の大切さを知ることができました。このような経験は滅多にできないことなので、私たちにとっても成長するいい経験になりました。





## ■ 伴 涼子さん（学部1回生／大谷高等学校出身）

### 参加プログラム：津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える（和歌山県有田郡広川町）※2014年度～



#### 秋の星見る会の開催

先輩方が継続して行ってきた広川町での星見る会。今回で4回目を迎えることができました。1回生の私は、今回初めてそのイベントに携わり、1から企画を練ることの難しさや地域の人たちのあたたかさを感じるとともに、このイベントを継続して行うことの意味や大切さを実感することができました。

9月10日、広川町津木地区で「秋の星見る会」を開催しました。当日は天気も良く、昼は地域の子どもたちと水鉄砲やブーメランを作りながら一緒に遊び、夜はメインでもある広川町のきれいな星空を見ることができました。今回のイベントでは「和」をテーマに、お月見や星をイメージした企画を考えました。私たちは企画班、音楽班、グルメ班の3つの班に分かれ、夏休み前から話し合いや作業を進めてきました。イベントを成功させるために1から企画を練ってきましたが、理想と現実の壁に直面したことがありました。意見を出して終わるのではなく、しっかり自分の意見に責任をもって発言・実行しなければいけないことを学びました。そして改めて、イベントを開くことの大変さを身をもって実感しました。試行錯誤を重ね、なんとかイベントの全容を形にし、当日を迎えました。当日のイベント準備や作業には、多くの地域の方々が参加してくださいました。私たちも地域の人たちと触れ合いながら、楽しくイベントを開催することができました。このとき私は、「学生主催の地域イベント」というよりも「地域の人々と学生と一緒に作るイベント」であると思いました。このイベントは1日だけでしたが、子どもたちの笑顔や楽しそうなお客さんの姿を何度も見るすることができました。この1日の活動を通して、主催者側として臨機応変に対応すること、若い世代として地域の人々との触れ合える時間を大切にすることに気付くことができました。普段あまり訪れることのない町だからこそ、定期的に地域と学生をつなぐ架け橋を途絶えさせないよう、このようなイベントを継続して行うことが大切だなと感じました。



イベント終了後、多くの地域の方から「来年も楽しみにしてるね」などの嬉しい言葉をいただきました。多くの期待に応えられるよう、今後の課題として、毎年開催しているイベントだからこそ、継続して取り組んでいきたいこと、そしてもっとこのイベントがよりよくなるために変えていかなければならないことについてこれからも広川の人たちと考えていきたいです。

■ 泉 果歩さん（学部1 回生／和歌山県立新宮高等学校出身）

参加プログラム：地区 × 学生による継続可能な地域活性化にむけた  
寄り添い型支援体制の構築と観光・交流情報発信  
（和歌山県海草郡紀美野町）※2014 年度～



8月14日、上神野地区の廃校になった小学校で開催された夏祭りに参加しました。

私たちは、屋台やミニゲームの企画などの事前準備と当日の運営のお手伝いをさせていただきました。かき氷やまるまる焼き、地域でとれた食材を使ったカレーなどを自分たちで一から作ったり、地域の子どもたちにも喜んでもらえるようなミニゲームを考えました。またステージ企画では、紀美野町 LIP の活動を地域の方々に伝える機会をい

ただき、私たちの活動内容や紀美野町に対する思いをみなさんに知ってもらうことができたように思います。

当日はたくさんの方が来てくださり、最後はみんなで紀美野音頭を踊るなど、お祭りは大盛況でした。私たち学生は、地域の方々のお手伝いをさせていただくことで大きなやりがいを感じると同時に、お祭りを存分に楽しむことができました。私は1回生として活動にどれだけ貢献できるか不安でしたが、地域の方々のあたたかさや紀美野町の魅力を深く知ることで、紀美野町が素敵なまちになるようなお手伝いをもっと積極的に行っていきたいと思うようになりました。

これからは学生からもさらに新たなアイデアを出し、それを実現できるよう努力していきたいと思います！



## ■ 北橋 里花さん（学部1回生／和歌山県立海南高等学校出身）

参加プログラム：世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営（認知症カフェでの実践を通じて）（和歌山県海草郡紀美野町）※2015年度～



認知症啓発を目的としたランニングイベント（ラン伴）への参加を通じて

紀美野町にあるコミュニティカフェ「ふれあい広場紀美野」では、2015年度より、月に一度、認知症の方やそのご家族が気軽に集い、話し合える場（きみの＊にこカフェ）を紀美野町保健福祉課、紀美野町社会福祉協議会と協力し、開設しています。私たち観光学

部生も、開設当初からカフェに参加させていただき、今年度も8名（3回生2名、2回生2名、1回生4名）の学生がカフェの企画・運営、イベントの開催などを通じ、認知症当事者の方々、また地域の方々と交流しています。

今回、私は上記活動の一環として、認知症啓発を目的としたランニングイベント（ラン伴）に参加させていただきました。このイベントは、北海道から沖縄まで、約5ヶ月間をかけてタスキを繋ぐもので、紀美野町での実施は今回で2年目となります。

日本全国で共通の思い、目的により開催されるこのイベントに参加し、小さな子どもからお年寄りまで、様々な世代の人たちが共に走り、応援し、タスキを繋いでいくことはとても感動的で素晴らしいことだと感じました。走り終わった人たちの笑顔はまぶしく、達成感に満ち溢れていました。

これからもこのようなイベント参加や私たちの普段の活動を通じて、よりたくさんの人に認知症への理解が広がってほしいと思います。



## Topics ー過去のイベントとニュースー

### ■ 東京でセミナー「スポーツツーリズム ～メガイベントが日本社会を変える～」を開催！



和歌山大学国際観光学研究センターおよび観光学部（藤田武弘センター長／学部長）では8月9日（火）、本学首都オフィスが入居する東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター（東京都港区）を会場に観光教育研究セミナー「スポーツツーリズム～メガイベントが日本社会を変える～」（スポーツ庁、観光庁後援、文部科学省スポーツ・文化・ワールドフォーラム公式サイドイベント）を開催しました。

学術界、産業界など各分野から70名を超える参加者を迎え、藤田センター長／学部長による本学での近年の観光学教育ならびに研究に関する取り組みについての紹介、Tom Hinch教授（カナダアルバータ大学教授／本学特別主幹教授）による「日本におけるスポーツツーリズムの現状とこれから」と題する基調講演、スポーツ庁参事官（地域振興担当）仙台光仁氏、本学伊藤央二講師をパネリストに交えたパネルディスカッションが行われました。

## ■ 世界観光の日 (World Tourism Day) 記念講演会「Tourism "Education" for All」を開催！



和歌山大学国際観光学研究センター（CTR）および観光学部（藤田武弘センター長 / 学部長）では、2016年9月28日（水）に阪南大学および関西観光教育コンソーシアムと共催で、阪南大学あべのハルカスキャンパス（あべのハルカス23階）を会場に、本学がアフィリエイトメンバーとして参画する国連世界観光機関（UNWTO）が定めた「世界観光の日」を記念し公開講演を開催しました。

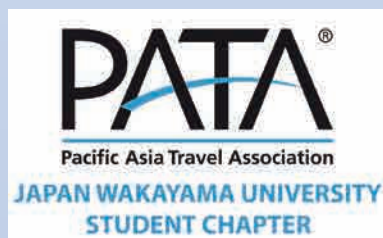
当日は学术界、産業界や観光を学ぶ学生など40名を超える参加者が集まり、本学加藤教授（CTR副センター長 / 観光学部副学部長）によるUNWTOや世界観光の日の要の紹介に続き、Richard Sharpley教授（イギリスセントラル・ランカシャー大学

観光学教授 / 本学特別主幹教授）による講演「Tourism "Education" for All」が行われました。

➔ <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/news/2016101200056/>

## Future Events —今後のイベント紹介—

### ■ PATA 日本和歌山大学学生支部が発足！



2016年11月1日（火）に、PATA Japan Wakayama University Student Chapter（PATA 日本和歌山大学学生支部）が発足しました。PATAとはPacific Asia Travel Association（太平洋アジア観光協会）の略で、太平洋アジア地域の観光の活性化を目的に設立された非営利の観光団体です。現在、和歌山大学の学生支部は、事務局・企画部・広報部で構成され、20人の観光学部生が参加しています。主な活動は、国際・観光に関するイベントやセミナー、レクリエーション活動の企画・運営です。今後、世界各地のPATA学生支部と連携しながら、活動を発展させていきます。

➔ <https://www.facebook.com/PATA-Japan-Wakayama-University-Student-Chapter-100401083772188/>

### ■ ミニ・オープンキャンパス in 東京 & 観光教育研究セミナー 2016 Vol.7 in 東京『観光からみた宇宙』開催！



2016年12月17日（土）、東京・品川のフクラシア品川クリスタルスクエア（港南口）にて、「ミニ・オープンキャンパス in 東京（12時30分～14時）」、ならびに「観光教育研究セミナー 2016 Vol.7 in 東京『観光からみた宇宙』（15時～17時30分）」を開催いたします。ミニ・オープンキャンパスでは、本学部の紹介に加え、卒業生・在学生によるリレートークを開催。また観光教育研究セミナーは、宇宙飛行士の山崎直子さんを講師に迎え、「宇宙観光」をテーマにしています。

いずれも事前の参加申し込みが必要です。詳しくは観光学部HPをご覧ください。

➔ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

#### 編集・発行

(2016年11月発行)

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

和歌山大学 国際観光学研究センター（国際教育支援部門）

〒640-8510

〒640-8510

和歌山市栄谷 930 和歌山大学観光学部棟 2階 K216室

和歌山市栄谷 930 和歌山大学経済学部南棟 1階

TEL/FAX 073-457-8553

TEL 073-457-7875

E-mail [tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp)

E-mail [info-ctr@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:info-ctr@center.wakayama-u.ac.jp)

URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>